

令和5年度第1回渋川市総合教育会議 議事録

I 開催日時

令和5年7月21日（金）午前10時開会 正午閉会

II 開催場所

渋川市役所第二庁舎201会議室

III 出席者

1 構成員

高木勉市長、中沢守教育長、鳥山サカ江教育長職務代理者
岩崎恵子教育委員、都橋俊明教育委員、原澤弘子教育委員

2 市長部局

伊勢総合戦略部長、萩原情報防災部長、山田福祉部長、鴻田政策戦略
課長、坂本政策戦略課統括主幹、後藤政策戦略課主任

3 教育委員会部局

佐藤教育部長、西島教育総務課長、飯塚学校教育課長
照井生涯学習課長、中山美術館長、飯沼教育総務課統括主幹

4 関係者

池田政治（東京藝術大学名誉教授）

5 傍聴者

11名

IV 会議の概要

1 開会

政策戦略 課長	皆さんおはようございます。本日はお忙しいところご出席 いただきまして、誠にありがとうございます。 ただいまから令和5年度第1回渋川市総合教育会議を開会 いたします。会議の進行を務めさせていただきます。政策戦 略課の鴻田です。よろしくお願いいたします。
------------	---

2 市長あいさつ

政策戦略 課長	それでは、開会にあたりまして高木市長からごあいさつを 申し上げます。
------------	---------------------------------------

高木市長	<p>皆さんおはようございます。今年度に入りまして第1回目の総合教育会議を開催いたします。教育委員の皆様にはお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。総合教育会議は教育委員会だけではなくて、当局等も一緒になって、子どもたちの教育を考えようということで作られました。色々なテーマがありますが、今回のテーマについては、渋川市の特色ある教育について、そして、もう1つは、現在、建設中ですが、渋川市の新美術館完成後の運営方針についてご協議いただきたいと思います。特色ある教育は教育委員会においても、平和学習ですとか、英語学習ですとか、色々なことをやっておりますけれども、それだけにとどまらず、不登校の問題の対策、障害平等研修といった、そういったことにも取り組んでおりますし、手話を使った学習、そういった市長部局も含めた取組を行っておりますので、ぜひ、これらのテーマについてご協議いただきたいと思います。</p> <p>美術館につきましては、市内にありました群馬銀行の建物をお借りしてやっておりますけれども、いろいろ議論を重ねて、この第二庁舎の1階に建設することになりまして、この6月に建設工事に着手して、完成を2月に予定してですね、3月に新しい美術館をオープンしようとしております。桑原巨守彫刻美術館と書いてありますけれども、場所も変わって、また新しいコンセプトで多くの人に来て見ていただき、美術館の楽しさ価値、そういったものを示していきたいと思っております。総合監修ということで、東京藝術大学名誉教授で前橋市在住の池田政治先生にご指導いただいております。後ほど、池田先生にも来ていただいて運営方針、考え方について発表していただくことになっておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。</p>
------	--

3 教育長あいさつ

政策戦略課長	<p>ありがとうございました。続きまして、中沢教育長からごあいさつをお願いいたします。</p>
中沢教育長	<p>皆さんおはようございます。昨年度までは、教育振興大綱の作成に、様々なご意見をいただきまして本当にありがとう</p>

	<p>ございました。6年間、今年度から使用する教育振興大綱ができて、それに則って教育行政方針等決めておりますけれども、今日の議題の渋川市が進める特色ある教育、これについても、まさに教育振興大綱の理念に基づいて、学び合い励まし合い、ともに生きる、この辺りを考慮して、さらに誰一人取り残さない、安心して学べる学校、そのようなキーワードが、ここに使われてるわけです。特色ある教育を取り上げていただきまして、本当にありがたいなと思うのは、今渋川市が教育委員会として取り組んでいる、特色ある学校・園での教育、その魅力ある取り組みについて、市長部局にもご理解いただいたり、あるいは多くの市民の方々にご理解いただいて、ご協力をいただいています。</p> <p>それから美術館についても、生涯学習を含めると、まさに魅力ある教育活動のその一環だと思います。美術館が身近になるような、そういった事業を様々出していただいているところでもあります。本日は、美術館について再度ご確認をいただきたい。お知恵をいただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。</p>
--	---

4 議題

<p>政策戦略 課長</p>	<p>ありがとうございます。本日は、今年度初めての会議であります。委員の皆様からも自己紹介という形でごあいさつをいただきたいと思います。教育長職務代理の鳥山様からお願いいたします。</p>
<p>鳥山職務 代理者</p>	<p>皆さんおはようございます。この5月から教育長職務代理を務めます鳥山サカ江です。皆さんに支えていただきながら頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。</p>
<p>岩崎委員</p>	<p>おはようございます。教育委員となりまして、3年目となります岩崎恵子です。保護者委員ということで現役の義務教育渋川市立の学校に通っている子どもが2人、県立の高校に通っている娘が1人、今年の春から大学に進学しました娘が1人います。4人の子育てを渋川に戻ってきてしている中で、</p>

	<p>色々と気づくことがありますして、意見させていただいておりますけれども、色々な方とつながることで、渋川市全体が良くなるように、教育で渋川市を良くしていくってというような気持ちで取り組んでいきたいと思っておりますのでこれからもよろしくをお願いします。</p>
都橋委員	<p>皆さんおはようございます。教育委員2年目の都橋と申します。出身は赤城です。どうぞよろしくお願いします。</p>
原澤委員	<p>おはようございます。原澤弘子と申します。5月からお世話になることになりました。何回かの会議を経て、自分自身が渋川について深く知る広く知るということで、新しい発見もあり、自分自身、まずは楽しんでいきます。お役に立てるように努めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
政策戦略課長	<p>皆様ありがとうございました。続きまして、職員の自己紹介を市長部局、教育委員会事務局の順にさせていただきます。総合戦略部長からお願いします。</p>
政策戦略課長	<p>【市長部局・教育委員会部局・事務局あいさつ】</p> <p>それではここで本日の資料確認をさせていただきます。資料は事前に皆様に配布させていただいております。</p> <p>当会議の次第、出席者名簿、本会議の設置要綱、資料としまして、資料 No.1 「誰一人取り残さない安心して学べる学校・園」、資料 No.2 「DETについて」、資料No.3 - 1 「手話学習について」、資料 No.3 - 2 「渋川市小中学校向け手話学習テキスト」、資料 No.4 - 1 「市民に開かれた美術館のあり方について」、資料 No.4 - 2 「新美術館の運営方針」でございます。資料 No.4 - 2 につきましては、本日配布させていただきました差し替え版の方でご確認をお願いいたします。資料が不足している方はいらっしゃいますでしょうか。</p> <p>それではここで、本日の会議を傍聴したいという申し入れが11名ほどの方からありました。本日の会議は公開の会議</p>

<p>政策戦略課長</p> <p>高木市長</p>	<p>でありますので、これを認めることにつきましてご異議はございませんでしょうか。</p> <p>【異議なし】</p> <p>ありがとうございます。異議なしということですので、傍聴することを認めさせていただきたいと思います。では傍聴希望する方にご入室いただきたいと思います。</p> <p>【傍聴者入室】</p> <p>それではこれより次第の4議題に移らせていただきます。渋川市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定により、市長は総合教育会議の議長となると規定されております。ここからの進行につきましては、高木市長にお願いいたします。</p> <p>なお、会議録を作成する都合上、発言される方につきましては、氏名をおっしゃってから発言いただきたいと思います。それでは、高木市長進行をお願いいたします。</p> <p>それではしばらくの間議長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p>
<p>(1) 渋川市の特色ある教育について</p>	
<p>高木市長</p> <p>高木市長</p> <p>高木市長</p>	<p>まず、議題(1) 渋川市の特色ある教育についてになります。資料 No.1 から No.3 まで一括して説明をお願いします。まず、資料 No.1 について教育部から説明をお願いします。</p> <p>【教育部 説明】</p> <p>資料 No.1 の説明が終わりました。続いて、資料 No.2 について、情報防災部から説明をお願いします。</p> <p>【情報防災部 説明】</p> <p>それでは随時資料で説明を続けます。資料 No.3 について、福祉部から説明をお願いします。</p>

高木市長	<p>【福祉部 説明】</p> <p>それぞれの資料について、説明が終わりましたが、いかがでしょうか。委員の皆様からご意見などありましたらお願いいたします。鳥山委員</p>
鳥山職務代理者	<p>教育長職務代理者鳥山です。ふるさと学習についてお尋ねしたいと思います。ふるさと学習は、地域行事への積極的な参加や、地域の伝統文化継承・育成を通じて、郷土愛を高める機会を作っていくことを目指して、教育委員会では、学習に取り組んでいるのだと思いますけれども、渋川市のそれぞれの地区の公民館ではどのようなふるさと学習が行われているか、また、旧渋川市内の公民館のふるさと学習について、中央公民館だけではなく、わかる範囲で結構ですので、お尋ねしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
高木市長	<p>鳥山委員は、豊秋公民館でふるさと学習に関わって色々な活動をしていただいています。渋川全体でどのように活動を行っているか説明をお願いします。</p>
教育部長	<p>渋川全体のふるさと学習についてのご質問がございました。まず、各公民館で自らの地域や市内のこの地域を知ることがを目的にしまして、地域を知る事業、こういった事業を各公民館で実施をしております。事業の内容を申しますと渋川を歩こうなど、改めて渋川のよさを実感できるような事業、また、上三原田の歌舞伎鑑賞会ですとか、津久田人形芝居など、また、市の文化財講座、ヒメギフチョウの観察、白井宿の散策、佐久発電所の見学など、歴史や、特産品、産業、また伝統文化など、多岐にわたっております。渋川市の公民館全体で、令和4年度は53回実施をしております、956名に参加いただきました。旧渋川の公民館では、まず、中央公民館ですと、成人学級ということで、渋川近隣の七福神巡りというようなものを開催をしております。豊秋公民館ですと、渋川市の埋蔵文化財のことですとか、赤城自然園の散策及び地</p>

	<p>区の歴史を知ろうなどといったような講座を行っております。また、東部公民館ですけれども、こちらは、中居屋重兵衛の話ですとか、渋川を歩こうを行っております。このように、各公民館でいろいろな、事業を行っておるところです。以上となります。</p>
高木市長	<p>鳥山委員から今の説明について何かありますか。</p>
鳥山職務 代理者	<p>地域の子供たちはほとんど参加してないのでしょうか。</p>
教育部長	<p>成人ですとか高齢者向けなどもあるのですけれども、子ども向けというのもございます。</p>
高木市長	<p>他に何かご意見がある方はいらっしゃいますか。3つの資料がありますがいかがでしょうか。都橋委員</p>
都橋委員	<p>7番のコミュニティ・スクールについて、質問というよりもお願いですが、まず、コミュニティ・スクール、地域と学校が協力することはとてもいい方法だと思っています。大事なものは、関わってる人達が、一生懸命やってるだけじゃなくて、地域の人たちに、ぜひPRというか周知活動をお願いしたいなと思います。学校との連携というのは、地域の協力をうたっているわけですから、委員に任命された人だけではなくて、その他の人たちにも、こういうことやってるんだよ、学校が今度変わるよってというようなことを周知していただけたらありがたいなと思います。私の個人的な意見ですが、よく情報発信の中で、「ホームページをご覧ください」と最後に文言を使う昨今、状況だと思っています。誠にかっこいい言葉なのですが、実はあまり活用されてません。よほどそういった情報に、普段から興味を持ってる人、そういった人以外はほとんど見ないのが実態だと思います。アナログでの情報発信、情報提供、そういったものをお願いしたいなと思っています。</p> <p>もう1つ、ふるさと学習の件と、それから、さきほどの市のバスの利用のお話がありました。せっかく市がバスを保有し</p>

高木市長	<p>てるわけですから、ぜひ活用してもらって、子供たちを外に出して、子供たちに色々なものに触れさせて、自然学習などを拡大していってもらえたらありがたいなというふうに思っています。以上です。</p> <p>コミュニティ・スクールは、もともと地域の皆さんと一緒にやってやろうということですから、地域の皆さんがよく理解されてないってことはあまり意味がないと思います。それをどういうふうにして、地域の皆様に広げていくか説明をお願いします。</p>
学校教育課長	<p>コミュニティ・スクールは地域の中で、学校が地域の力を借りて、色々な活動を行い、そして地域の活性化ができる、そういう活動だと思っております。現在、ホームページなども使っていますが、学校だより等を使いながら、学校運営協議会のことだとか、学校の活動の様子などをお知らせしていると思われま。それから、公民館の運営にあっても、それを周知していくのかなと思います。それと併せて、各学校の校長あるいは教頭が地域に出向いて、学校をアピールできる、そのような体制をより整備していきたいと考えております。</p> <p>それから、ふるさと学習や、校外学習に支援バスを活用してというご意見、本当にありがとうございます。令和2年度3年度は、コロナ禍であまり行けなかったのですが、令和4度はある程度校外活動に行けるようになり、市の支援バスを有効に活用させていただいております。子供たちが自然体験、様々な体験をできるよう、これからも取り組んでいきたいと思っております。以上です。</p>
高木市長	<p>ホームページをご覧くださいというアナウンス以外にも効果のある方法について、広報担当の総合戦略部長から説明をお願いします。</p>
総合戦略部長	<p>ホームページをご覧ください。こちらをご覧くださいという形で、短い文章でそちらの方に誘導していくという方法は、昨今多くなっていることは事実だと思います。また広報紙につ</p>

	<p>いても、月1回の発行がいいという方、月2回発行しているけど読まないという方がいたり、紙がいい、デジタルがいいというご意見があり、現在は併用といたしますか、両立しているのが現状かと思えます。デジタル化が今後進んでいく中で、当然ホームページ、デジタル、紙媒体を通さない情報伝達というのが、主流になってくることはあると思えますが、デジタルになじまない方が、情報に取り残されることがないように、しっかりとケアをしながら、情報伝達をしっかりと行っていきたいと思えます。よろしくお願いたします。</p>
高木市長	<p>デジタル化が良いものだという風潮であると思えますが、アナログで伝えていくことも重要だと思えます。その他、原澤委員からご意見はありますか。</p>
原澤委員	<p>コミュニティ・スクールについて、私は学校にいた身としては、このことによって、学校が連携しなければならないところから学校の仕事量が増えていってしまうのではないかと懸念しています。資料には、3者が全部同じにと書いてありますが、スクールですから、学校があくまでも主体で、学校現場をサポートするための地域であり保護者であるという、そういう位置付けではないかというふうに私自身は思っています。もうすでに始まっていますが、学校現場は、この取り組みについて、どう受けとめているのかお聞きしたいです。学校をサポートするためのシステムであるべき、例えば部活動ですとか、放課後学童保育ですとか、夏休みの宿題支援、そういうのはとても良い取り組みだと思えます。助けて欲しいところで、地域や保護者が助けてくれるような体制でないと学校としては苦しいのではないかと思います。そういったところで、学校現場がどのように受けとめているのかお聞きしたいです。</p>
学校教育課長	<p>学校現場がどう受けとめてるかということなのですが、この仕組みが始まる前に渋川は過去10数年、3者連携推進協議会、3者連携事業を行っておりました。これは、家庭、学校そして地域が連携して子供たちの健全育成を目指そうという</p>

ものでございました。これは非常に意義がありまして、学校も家庭の方々とか地域の方に支えられ、いろんな成果を上げてきました。ただ、管理職が学校の中では先導しながら色々なところと調整をしていて、一般教諭、担任は三者連携推進協議会に向けて何をすればよいかという意見がありました。それなので、今回は学校の校長教頭だけが頑張るのではなく、すべての先生方にこの仕組みを周知させ、そして、先生が頑張るだけではなく、地域の力を借り、保護者の力を借り、保護者にとっても地域にとっても、活力ある地域づくりに向けて、双方がウィンウィンの関係になるような、そんな取り組みになればと思い進めているところです。学校現場としては、まだ始まったばかりですので、その周知が隅々まで行き届いておりませんが、学校で行われてる行事を見直しながら、どのように活用できるかを考えているところでございます。

高木市長

他にご意見はありますか。岩崎委員

岩崎委員

まず、コミュニティ・スクールについて、私が以前住んでおりました宇都宮では、正式なコミュニティ・スクールとは違ってなかったのですが、学校運営協議会と同じようなものがある学校に子供を通わせていました。そこでは、学校の公開日というのが1週間設けられていまして、地域の方たちがいつでも自分の名前を書いて、名札を下げれば、学校を見ることが出来る日にちを設けていました。近所のおじいさん、おばあさんですとか、あるいは子供をまだ通わせる前の、未就学児の保護者ですとか、そういった方が学校に行って、授業を見たり、あるいは休み時間に子供と交流するようなことが行事として行われていた学校でした。文化祭も、地域の文化祭と一緒に学校で学校運営協議会の委員さん主体で行っていたので、コミュニティ・スクールとしては充実していたということを実感してからこちらに戻ってきました。

小野上という地域に戻ってきまして、割とがまだ充実している地域ではありますので、地域の方が企画する例えばます釣り大会が先日ありまして、市長も挨拶にいらっしゃってくださいましたけど、一人暮らしのお年寄りの方は子供たちが

初めて釣りをする、魚を釣って、最初は触れないですが、だんだん慣れて、つかみ取りをするところまで行って、水は美しいということだったりとか、自然が豊かだということだったり、地域の方が多く関わってくれているってことを、体で体感することができる、とてもいい行事だなんていうことは先日も感じたばかりです。今まで大事にしていた地域の繋がりだによっていうことを地域の方にもっと広く伝えるためにも、一保護者としては、学校はもう少し地域に開かれている状態に少しでもしていただけるとよいかと思います。開かれた状態にすると、懸念されることが多々あるとは思いますが、コーディネーターの方が今年から選任されましたので、バランスよく、うまくまわしていただきたい。また、市全体が各学校の自由だということは聞いていますが、こちらの学校ではコミュニティ・スクールが充実しているのにこちらの学校では、コミュニティ・スクールが充実していないというようなことがないように、他の学校がどのように取り組んでいるとか、そういった情報は共有していただきたいと思います。

もう1点、コミュニティ・スクールについてなのですが、これができるのかできないのかわからないのですが、学校に、空き教室が増えている問題があると思いますので、各学校の判断で、利用方法はそれぞれだと思いますが、そちらを例えば、地域の教室というか、その地域の方が、名前を書いて、名札さえ下げればいつでもそこに行って、使えるといいかなと思います。学校側から、例えば今日は草むしりをして欲しいとか、そういうのが書かれているような掲示板を設けるですとか、あるいはその地域のふるさと学習にも繋がるような、掲示物を張るとか、そういったものができるのではないかなと日々思っております。

高木市長

学校に対してどのように関わったらいいいのか、なかなか地域の人たちがわからないところもあるのだらうと思いますが、3者連携協議会という渋川独特の風土がありますからそういったものをうまく活かして、コミュニティ・スクールに移行して取り組んでいただきたいと思いますが、教育長は現場としていかがですか。

中沢
教育長

コミュニティ・スクールが制度上できて、もう10数年経ちますが、全国的に遅々として進まなかったという経緯があります。

コミュニティ・スクールの中では、学校運営協議会が3つのことができます。1つは、学校の教育課程について承認をするということ、それからもう1つは、学校の様々な取り組みについて、教育委員会に対しても意見を言うことができること、それともう1つは、教職員の人事に関する意見ができるということです。地域の人を学校に入れるにしても、学校を開くにしても、不審者対応ということもあるし、様々なことの中でコミュニティ・スクールがなかなか進みませんでした。渋川市においては、3者連携、地域連携を既に行っているのではないかというような議論もありました。しかしながら、3者連携の、先ほど学校教育課長がお伝えした課題を乗り越えて、新たな地域とともにある学校づくりを目指しましょうということで、数年かけてコミュニティ・スクールの議論をして参りました。3者連携との違いは何か学校評議員との違いは何か、そういうことの中でわかりにくさというのがあると思いますが、まずは動き出してみても、こんな取り組みがあるのだということを周知していくことによって、コミュニティ・スクールの良さを実感できるかと思っています。毎年11月に開催している、「まなびの日」で、コミュニティ・スクールの取り組みの良い実践を、例を挙げて発表しようと思っています。中部管内の生涯学習の中でも、渋川市の取り組みということでまた発表することにもなっています。

他にも、新聞にも掲載された、中学校3年生の入試に対する3者面談の時に、地域の人が面接官になることで、子供たちも良い緊張感の中で良い練習ができたし、地域の人も子供たちと接することができてよかったというものがありました。それから、先ほどのふるさと学習についてもそうですけれども、今年公民館で、夏休みの宿題のお手伝いをしようという講座が100いくつもあります。つまり、学校の中で、夏休み中に手が回らなかったところを、公民館の中で、夏休みの宿題のポスターだとか作文だとか、読書感想文、ドリル、そういうものについて、お手伝いしようといういくつかの講座

	<p>が設けられています。子供たちに対して、ニーズを把握しながらやっけるのは、それも地域の力だと思います。学校が企画してお膳立てをしてお手伝いしていただいたものから、地域が企画して、学校と相談しながら地域主体でやっていただいているという、そのような取り組みは、今までと変わってきたという気がいたします。そのような取り組みを、実際に地域や、学校に発信をしながら、それぞれの学校でできること、それぞれの地域の得意なところがあると思うので、得意なところを活かしながら、地域の中の学校をご支援いただければと思います。</p> <p>11月に「まなびの日」があります。情報を発信しながら、ご理解を賜りながら、またさらにいいものを探りながら取り組んでいけるのがコミュニティ・スクールだと考えています。来年には全部の学校ではじまります。その中でお互いに良いものを共有しながら、そういった場面を設けながら進めていきたいと思っています。</p>
高木市長	<p>時間の都合もありますので、コミュニティ・スクール以外のテーマでご意見がありましたらお願いします。岩崎委員</p>
岩崎委員	<p>英語教育と平和教育もあわせてなのかもしれないのですが、世界の中の日本、日本の中の渋川市でありますので、そういったところがすごく大事だと思います。先日、娘が修学旅行で広島に行ってきました。G7のちょうど直後というものもあって、ウクライナのゼレンスキー大統領がいたことを感じる事ができて、また、原爆ドームを見て、本当にここに原爆が落ちたんだということを感じる事ができたということで、共通していえることは、本物に触れる事ができたということだと思います。全ての子供たちに平等に、教育が行き渡るようにこれからも市政を進めていただければありがたいと思います。</p>
高木市長	<p>他にご意見はありますか。原澤委員</p>
原澤委員	<p>2つ目の英語教育の充実について、私が勤めておりました</p>

<p>学校教育 課長</p>	<p> 渋川女子高校でも、インターナショナルデーということで、英語だけで過ごす1日を作りました。ALTが一堂に会して、色々なアクティビティとか、プログラムを作ってくれるのですが、ただ英語のシャワーを浴びる（英語を聞き流している）だけで、時間が流れていくというような反省がありました。例えば、ALTが何か話すだけじゃなくて、自分も自分の出身地について、拙い英語でもいいから用意して、それをALTと生徒が交換し合うとか、何かしら事前準備みたいなことができるのと、とてもその日が有意義になるかなと思います。これは渋川女子高校に勤めていた時の反省なので、もうたくさん準備なさっていると思いますけども、そのような意見を申し上げたいと思います。 </p> <p> それともう1つ、渋Pay文庫ですけれども、課題図書と書いてありますが、なぜ課題限定なのかということと、渋Payの応援金を活用して、各校に自由裁量の余地があるのかお聞きしたいです。私個人としては、課題図書に限定しなくてもいいのではないかという考えがあります。 </p> <p> 先日、渋川女子高校のインターナショナルデーに何人か指導主事を派遣して見学させていただきました。委員のおっしゃる通り、色々な準備が大事なのですが、今年度、教育委員会に、英語教育推進員を1人入れて、その者を中心に頑張っております。この後、2学期以降になるのですが、小規模特認校になるのですが、小野上小学校と伊香保小学校にALTを1名在住させます。私の個人の考えも大分入ってくるのですが、SGCD渋川グローバルコミュニケーションデーでは、私は一つのきっかけだと思います。小さい学校の中で、日々、外国の方と関わることで、その外国の方も、当たり前ですけど同じ人間で、言葉は違うけれども、信頼したり、悲しんだり、怒ったり、そういう体験的なことを、授業だけじゃなくて、様々な学校の中の行事、あるいはスポーツ、清掃活動だとか、そういうところでできるといいなと考えております。そういうのが、国際理解教育に繋がり、そして人権教育に繋がり、もっとその先に、平和教育に繋がっていくのかなと私は思っております。SGCDは、今年度全ての </p>
--------------------	---

高木市長	<p>学校23校で1回以上行います。これを1つのきっかけにし ながら、今言ったようなことができるといいなと考えており ます。</p> <p>それから渋 Pay 文庫につきまして、先ほどのご質問にお答 えさせていただきます。少しでも早く子供たちにといい、5 月に、夏休みの課題の作文に使える図書を入れさせていた だきました。今後は、ある程度予算が残っておりますので、各学 校の実情に応じて、学校の中で、希望する本を2学期以降考 えていき、渋 Pay 応援金を活用していきたいと考えています。 課題図書以外にも推薦図書や各学校からの要望を受けた本も 購入していく予定でございます。</p> <p>渋 Pay 文庫の予算は200万円だったかと思います。また、 7月15日から第1弾のポイント還元キャンペーンが始まっ ています。順調にいったるようですので、その1%分の財源 を活用して、色々な関係の図書を充実していきたいと思っ ています。それでは、特色ある教育、これについては、色々な 意見がありますけれども、全体として学力レベルを上げて ることも大事ですが、それぞれの学校で特色のある教育を していく。そのことによって、例えば小規模特認校の小野上、 伊香保、こういったところに行って、子どもを学ばせるとい うようなことに繋がっていくといいなと思っています。</p> <p>それでは、最初の議題「渋川市の特色ある教育」につい ては、以上とさせていただきたいと思います。</p>
(2) 市民に開かれた美術館のあり方について	
高木市長	<p>次の議題、「市民に開かれた美術館のあり方について」にう つります。本日、新美術館の総合監修を務めていただいで いる東京藝術大学名誉教授の池田政治先生にご出席いただ いております。教育部からご紹介をお願いします。</p>
教育部長	<p>本日お越しいただきました池田政治先生をご紹介をさせ ていただきます。まず、池田政治先生ですが、前橋市のご 出身でございます。東京藝術大学の大学院技術研究科デザ イン専攻を修了してございまして、1990年から東京藝術 大学の助教授、2000年から2013年までは同大学の教授、200</p>

	<p>9年からは同大学の美術学部長を務めました。現在は東京藝術大学の名誉教授、東京工科大学の名誉教授を務められています。</p> <p>先生の代表作の1つには、群馬県庁舎建設時に設置されました同庁舎内の、「けんのかたち」また、「清流」などがございます。池田先生におかれましては、渋川市の新美術館建設の総合監修としてご意見をいただいているところです。先生本日はどうぞよろしくお願いたします。</p>
高木市長	<p>池田先生、総合教育会議にご出席いただきありがとうございます。今日の議題は新美術館についてでありますので、先生にもご出席いただいております。先生からご挨拶をお願いいたします。</p>
池田 名誉教授	<p>ただいまご紹介いただきました池田と申します。この度、美術館の移設に伴いまして、総合監修という形で携わっております。よろしくお願いたします。</p>
高木市長	<p>ありがとうございます。それでは議題(2)の資料4について、教育部から説明をお願いします。</p>
	<p>【教育部 説明】</p>
高木市長	<p>美術館のある街、市民から愛される美術館になるようにということで、色々なご意見を集めて、新美術館の運営方針に反映させていきたいと思っております。池田先生は先ほどご紹介がありましたが、整備から運営、新しい美術館の考え方を整理する上で色々のご意見をいただきました。先生にお越しいただいておりますので、直接先生から新美術館に対する思いなどがありましたら、お話いただきたいと思います。</p>
池田 名誉教授	<p>ただいま、美術館の運営方針について説明していただきましたけれども、資料 No.4-2 のとおり、コンパクトにまとめていただきました。今までの美術館は駅から近くて、群馬銀行の雰囲気のある建物で、個性があったと思いますが、この</p>

度、第二庁舎に移る、移設が完了すると、この先20年、30年、さらにそれ以上、美術館としての役割を担うわけです。担当する方も色々変わってくると思うので、考え方も違ってきますし、3年くらい経つと違った解釈にもなってくる。従って、この機会に、運営方針をしっかりと決めた方がよいのではないかということでした。1ページの沿革をご覧ください。そもそも芸術の森構想から始まって、40年近く経ちますね。また、旧美術館ができてから20年が経ちます。この20年をどう解釈するかというと、国立美術館の100年というスケールから言えば、短いでしょうけれども、市の美術館でいうと、かなりの歴史を作り上げてきたっていうことであると思います。県内にも、市立の美術館がありますけども、こんなに長く、時間は経っていないと思います。ですから、そういう点では、市民の声ということを再認識して、さらに良くなるという期待も込めて、美術館の移転を進めていただきたいです。

いくつかお話したいのですが、私が今回の総合監修ということで、3つほど私の役目があって、1つは、機能の面において、鑑賞する人が見やすい、作品を展示する人が展示しやすい、そして、維持管理が非常に楽で、経費もこの際ですから、見直して、合理的な運営ができる美術館機能、今までの美術館でできなかったことを今回クリアにして、はっきりさせることが1つです。もう1つは、渋川市の美術館ですので、渋川市らしい顔をした展示を求められると思います。どこでもあるようなものではなくて、渋川市らしさを求められる。それは、奇異な形を求めるのではなく、落ち着いた形でもいいのですけれども、渋川の顔ですよ。そういった顔を今回どうしていくのか。限られた予算の中ですけれどもそれを精一杯追求していきたい。もう1つは、新美術館ができてからの、展示企画の内容を充実していくということです。これはすぐには効果は出ないと思いますけれども、1回1回展示を重ねることで発揮され、1年経った時に、よかったねとか。素晴らしいね。と言ってもらえるように。そういうような積み重ねが大事だと思います。日本一になる形を求めるのではなくて、時間をかけて、皆さんが作っていくという内容の展示企画を

準備していくということです。この3つの視点で私ができることで、アドバイスしていくというのが、私の立場であります。

それでは、少しお時間いただきたいのですが、今までの美術館ができた経緯からいって、桑原巨守彫刻美術館と渋川市美術館の2枚看板、今もこれが正式名称です。他の美術館とは違った特徴のある美術館だと思います。それを考えると、今回、既存の建物に作るわけですけれども、今までの美術館は銀行という機能の中に作りましたので、1階が桑原さんの作品展示スペース、2階がそれ以外の企画展示室と分かれていました。それを今回、1階の美術館として2つ合体することとは大きなことだと思います。それから、桑原先生の作品は20年展示していますので、作品としては相当たくさんあります。桑原先生の作品は、幅広く市民の皆さんには知られてますので、それをより、見やすく展示して、よりよい展示空間の中で見られるようにしたい。今まで会場が2つに分かれていたこともあり、看板が2つあったものですから、どうしても、市民レベルの発表の機会である渋川市美術館のほうに少し控えめになっている印象でした。今回新しくなりますので、桑原先生の作品はきちっと見せて、定着させ、さらにいい形で結ぶ。それに、両輪として、渋川市美術館の展示企画が着々と進められ、毎年、さらに良くなっていくという形にしたほうがいいと思います。それを準備委員会で申し上げて、この運営方針の中に取り入れられていると思います。

そして、芸術の森構想は、資料の2枚目ですが、1986年に策定されて40年経ちます。こういうものは伝統ですので、新美術館が開館するにあたって、今後とも、もう1回見直して、つなげていったらどうかと。さらに、プラスするものがあれば、時間をかけて足していくということが必要です。なぜ桑原先生の作品が展示されているのか、市民から見たらわかりにくいこともあったと思います。今回、運営方針の中で、渋川市が掲げていた自然賛美、渋川市の豊かな自然環境の中で、渋川市全体を芸術の森にするんだってということですよね。そのコンセプトに合致するため、桑原先生の作品がコレクションされているのだと思います。

資料 No.4 - 1 の裏面に平面図があります。今は工事が始まっていますので、イメージしにくいと思いますが、黄色の部分が新たに美術館として仕切られた部分です。左側の半屋外、屋根がかかっていますが、その部分を桑原巨守彫刻ギャラリーとする。今まで以上に見やすいギャラリーにすると。桑原先生のギャラリーは、階段を降りてきてすぐ左側に入れますので、そこで鑑賞をしながら、右側の美術館の中に入ってこられる。さらに、美術館に入る手前の輪のホールの斜めになっている部分が大きなガラスになっているので、中から桑原先生の作品を鑑賞することができる。ホールには椅子が設置されていますので、くつろぎの場でもあります。決して、既存の建物で仮設的に設置したのではなくて、ユニークな展示室だということがわかんと思います。

また、黄色の部分は色々な企画展を実施する場です。AとBに真ん中で仕切られ、さらに細かく仕切られながら、要望に応じた展示ができるようになっています。さらに、廊下のつきあたりの壁に大きな窓を作り、大きな絵画を展示できるようにする。廊下も美術館の中だと印象付ける。廊下側の壁に、小さな窓を作って、絵画がかけられるようにして、美術館と一体としている。さらには、つきあたって左側にお手洗いがありますが、そこまでを含めれば、相当な面積になると思います。

ロゴマークにつきましては、「つながる」、「ひろがる」、「あおぞら」という分かりやすく親しみやすいコンセプト、言葉を受けて、イメージしてロゴマークを考えました。

高木市長

ありがとうございました。池田先生から渋川市の新美術館は時間をかけてつくっていくものだとお話がありました。委員の方々からご意見などありましたらお願いします。都橋委員

都橋委員

新しい美術館がスタートできて本当におめでとうございます。1つお願いですが、美術館は、自分自身もそうなのですが、なかなか縁遠い世界というところがなきにしもあらずなので、できるだけ、人が来るのを待つんじゃなくて、人を呼

池田 名誉教授	<p>び寄せる工夫、そういった企画をお願いします。ぜひにぎやかな美術館にさせていただけたらと思っています。</p> <p>大変貴重なご意見ありがとうございます。人が来てにぎわうというのが一番大事だと思います。この時期に新しい美術館がオープンするということで、全国的にも注目されると思います。地域に根ざした美術館なわけですから、渋川市らしい企画をしたい。一度行ったらまた行ってみたい、また、人を誘って来る。それから、広報の役割で情報を発信していくことも重要です。また、図書館が色々な工夫をしているので、そういったものを参考にしてもいいかもしれません。生活の中に身近にあるものをわかりやすく展示すると人も来ますし、友達を誘ってくれると思います。</p> <p>それから、少子化が進んでいますけれども、この先も面白いワークショップをしながらやっていく。今まで以上に覚悟を決めて企画を進めていって、まずいところは直していくという、その積み重ねが大事だと思います。</p>
高木市長	<p>ありがとうございます。他にご意見はありますか。原澤委員</p>
原澤委員	<p>美術館と公民館との差別化というか、その辺りをどう図っていくのがよいか先生にお尋ねしたいです。皆さんが作った刺繍作品とか子供の作品を展示するといったことを公民館でしていると思いますが、それを新美術館でやるときに、公民館にはない展示というような、その差別化をどう考えていけばいいのか、先生にお尋ねします。</p>
池田 名誉教授	<p>美術館も公民館も一緒にいいと思います。どちらでやった方が効果があるとか、場合によっては、両方でつなげてやってもいいと思います。</p>
高木市長	<p>他にご意見がある方はいらっしゃいますか。岩崎委員</p>

岩崎委員	<p> 渋川市の美術館のリニューアル、とても楽しみにしています。以前の趣のある建物もよかったですけれども、より身近に美術を感じられるということで保護者委員としても、デジタル技術が進んでいる時代に、アートが大事だっていることが言われているかと思しますので、渋川市はこれからこの新美術館を通じて、子供たちを育てていくというものにも繋がるような施設になっていくとありがたいと思いました。描かれたものをただ展示するのではなく、そこから発信できるような、自分たちが作ったものが、例えば、世界に発信できるような仕掛けですとか、そういったものがどんどん取り入れられていくとまた面白いかなと思います。 </p> <p> 先生の輪のモニュメントも本当に楽しみにしています。本物の美術、本物の自然素材を使われているということで、ぜひ子供たちと一緒にいきたいと思っています。 </p> <p> また、芸術の森構想の中に含まれているグラウンドのある総合運動公園が渋川の上の方にあるのですけれども、そのモニュメント、中学生の大会で時々何気なくそこを通ると、その周りとか、サッカーをしていたりとか、自然の中にアートがあって、とてもいいものだと思います。ただ、それをどうという人が作って、どういうものなのかとなるので、作品の情報が知れる何かがあれば、子供たちが芸術に触れる機会になるのではないかと思います。とても楽しみにしています。 </p>
高木市長	<p>ありがとうございます。鳥山委員はいかがですか。</p>
鳥山職務 代理者	<p> 市役所に来た方が気軽に寄ることができる。一般の方々が見られるということはとてもいいことだと思います。それでも美術館は、どこに行っても気品があって、色々調べて行く人が多いと思いますので、その両方を備えた美術館になればいいなと思っております。楽しみにしておりますので、よろしく願いいたします。 </p>
高木市長	<p>ありがとうございます。教育長から何かありましたらお願いします。</p>

<p>中沢 教育長</p>	<p>美術館に関しては、このところ、色々なご意見をいただいております、私もどうあるべきか考えてきたところですが、ついこの間、実際に半屋外のところに、彫刻を並べたところ、凄く安らぎを覚えるというか、あの空間が全く別物に見えました。心の休まるような空気を感じました。芸術というのは、まさにそういうことなんだろうなというふうに思いますし、よく学力向上と言われますけれども、学力は、私は生涯にわたって豊かに暮らすための学ぶ力だと思います。美術館もそういう体験をすることで、そこに行くことによって、何か豊かなものを得られるような、そういう空間を目指していければいいのかなあというふうに思います。時代とともにいろいろな工夫があると思うので、そういうところを追求しながら、本当に良い美術館になればいいなと思っております。</p>
<p>高木市長</p>	<p>まだ美術館は完成しておりませんので、これから色々なものを取り入れて、作り上げていきたいと思っております。先ほど池田先生が仰ったように、公立の美術館は県内でもそんなに多くありません。その中でも渋川市の美術館はもうすでに歴史がありますので、またそういった歴史を踏まえて、市民に愛される美術館に、渋川市の誇りになるような美術館にしていきたいと思っておりますので、色々な方のご意見をいただければと思います。本日は途中経過になりますが、以上で美術館についての議題を終わりにさせていただきます。</p>

5 その他

<p>高木市長</p>	<p>その他について、事務局からあればお願いします。</p>
<p>政策戦略 課長</p>	<p>事務局からは、特にございません。</p> <p>【委員から特になし】</p>

6 閉会

高木市長	それでは、令和5年度第1回渋川市総合教育会議につきましては、以上で終わりにさせていただきます。熱心に議論いただきましてありがとうございました。
------	---